
アニメ！ゲーム！作者！野球大会選手権！

疾風の音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アニメ！ゲーム！作者！野球大会選手権！

【Nコード】

N8455W

【作者名】

疾風の音

【あらすじ】

これは、作者の好きな野球を小説にしてみたという駄作です。

過度な期待はしないで下さい。

後、部屋を明るくしてパソコンから3メートルは離れて見やがって下さい。

大会ルール（前書き）

まずは大会のルールを説明します。

大会ルール

ルール説明

出場チームは12チーム。

12チームを2組6チームに分かれる

リーグ戦を行い、各組上位3チームが決勝トーナメント進出。

また、リーグ1位のチームは準決勝から登場。

トーナメントの構図「」は試合数

1回戦

A組2位 vs B組3位 「01」

A組3位 vs B組2位 「02」

準決勝

B組1位 vs 「01」の勝者 「03」

「02」の勝者 vs A組1位 「04」

3位決定戦

「03」の敗者 vs 「04」の敗者 「05」

決勝戦

「03」の勝者 vs 「04」の勝者 「06」

これが一様の大まかなルールです。

チーム紹介（前書き）

この小説に出場する12チームを紹介します。
名字だけだったり、作者さんを略称しています。

チーム紹介

チーム1

チーム名：マリオファミリー

特徴：チームの中心のマリオを筆頭にクッパやドンキー等のパワーで勝利を持っていくタイプ。投手陣も選手層が高く、エースのテレサは変化球が多彩。

中心選手：マリオ、クッパ、テレサ

チーム2

チーム名：スマブラオールスター

特徴：監督のマスターハンドの起用法は驚かせる、エースのマルスは屈指の右腕。ソニック、フォックス、ピカチュウのスピードスタートリオが驚異。

中心選手：マルス、フォックス、ガノンドロフ

チーム3

チーム名：テイルズヒーローズ

特徴：選手層が物凄く厚く、特にチームリーダー、ウェイグに注目したい。投手陣ではエクシリアのヒロイン、ミラの完成度が高い。

中心選手：ウェイグ、ユーリ、ミラ

チーム4

チーム名：東方ファンタジア

特徴：攻守とも安定しており、チームリーダーでエース右腕の博麗と打者のキーマン、レミリアと藤原に期待したい。

中心選手：博麗霊夢、レミリア、藤原妹紅

チーム5

チーム名：戦国一騎当千BASARA

特徴：打力が持ち味のチーム、特に豊臣と徳川のパワーは侮れない、エースの石田は若干の不調だが安定がある。

中心選手：伊達政宗、真田幸村、豊臣秀吉

チーム6

チーム名：リリカルストライカーズ

特徴：走攻守全て揃ったフェイトは侮れない、エースはなんとナンバーズのノーヴェが勤める。監督のスカリエッツィの采配も注目。

中心選手：高町なのは、フェイト、ティアナ

チーム7

チーム名：銀魂連合軍

特徴：チームワークが皆無だが、底力があり接戦が得意。注目は坂田とエース土方か。神楽のパワーにも期待したい。

中心選手：坂田銀時、神楽、土方十四郎

チーム8

チーム名：とある幸運の星

特徴：とあるシリーズとらき すたの合同チーム。上条と御坂のコンビに泉のスピードで一気に勝利に持っていく。エースの柊姉妹の姉、かがみにも期待大。

中心選手：上条当麻、御坂美琴、泉こなた

チーム9

チーム名：プリキュアスターズ

特徴：ソフトボール経験のある日向が絶対的エース。更に力のある美墨と運動神経のある北条も期待度が高い。

中心選手：美墨なぎさ、日向咲、北条響

チーム10

チーム名：BTS団

特徴：涼宮ハルヒの憂鬱とバカテスの合同チーム。悪い意味で最も力が無いチーム。ある意味普通のキヨンと吉井に期待するしかない。

中心選手：キヨン、長門有希、吉井明久

チーム11

チーム名：音楽愛好会

特徴：けいおん！とボーカロイドの合同チーム。田井中のピッチン

グが頼みの綱、接戦になればKAITOや秋山などの中軸に任せられる。

中心選手：KAITO、田井中律、秋山濤

チーム12

チーム名：作者同盟軍

特徴：この小説の作者である疾風の音が集めたチーム。選手数は少ないが、結束力が高い。投手陣はゆうやんとのりりんの2枚看板に注目。打者はしらの一発に期待大。

中心選手：ゆうやん、のりりん、しら

以上この12チームが優勝を目指し、火花が散る！

抽選会（前書き）

最初に言っておきます。

この小説に贋作や補正はありません。このキャラだけが打率が高い事はありません。

その事を前提に見てください。

抽選会

今日は抽選会の当日、試合はその3日後にA組の試合から始まることとしていた……。

射命丸

「皆さんこんにちは〜！清く正しい射命丸文です！今日は12チームの抽選会有一些る会場に来ております！」

椛

「そして！アシスタントの犬走椛です！」

射命丸

「さて、抽選会まで2時間になり、息苦しい雰囲気になっています」

椛

「ですけど文様、まだ誰も来てませんよ？」

椛の言う通り、人は疎らだった。

射命丸

「まあ、早ければ何にでもなりますからね〜」

すると一台のバスが此方にやってきた。

射命丸

「あやや！早いですね。もう来ている方達が居ますね。」

降りてきたのは……。

ミゲール

「俺が先だ！」

カイ・R・銃王

「いや！俺が先だ！」

izumi

「貴方達はレディファーストを知らないんですか！？」

射命丸

「あやや……どうやら作者同盟軍の方達みたいですね。早速突撃
しましろう。」

作者同盟軍に近付く射命丸達。

射命丸

「作者同盟軍の皆さん！おはよう御座います！早速ですが、意気込
みを聞かせてください！」

射命丸は早速取材を行う。

無幻

「意気込みですか？そうですね・・・頑張れるように努力したいと思っっています」

さらに射命丸は1人の作者に声をかける。

それはこのメンバーを集めた張本人である。

射命丸

「あや！？貴方は疾風の音さんじゃないですか！意気込みはどうですか？」

疾風の音

「皆の結束力で頑張りたいと思っってます」

さらにキーマンの作者に突撃した。

射命丸

「あの人は・・・ゆうやんさんです！早速取材をお願いします！なんと疾風の音さんからエースを任されたのですが」

ゆうやん

「まさかエースを任せられるなんて思っても見なかったです。ですが任されたからには試合を作りたいと思ってます」

作者同盟軍の取材を終えて・・・。

射命丸

「凄いですね〜。あの作者達の結束力は凄まじい物です」

さらに射命丸は一台のバスを見つける。

射命丸

「あれはマリオファミリーのバスですね！権！早速取材をやりますよ〜！」

権

「まっ、待つてくださいよ〜！文様〜」

バスから降りてきたマリオファミリーの面々。其処に射命丸は取材を行った。

マリオ

「ん？あんたは？」

射命丸

「貴方がリーダーのマリオさんですね！早速ですが、まだ3日ありますが、試合への意気込みをお願いします！」

マリオ

「そうだな・・・どのチームと当たっても悔いの無い試合をする。これで良いか？」

射命丸

「はい！ありがとうございます！あや？クツパさんですよ！取材をして良いですか？意気込みを聞かせてください！」

クツパ

「誰であつても我輩の力で倒すのみよ！ガッハッハ！」

そして、取材を行って1時間・・・。

射命丸

「あや、こつ言う形で取材を行うと結構骨が折れますね」

椀

「ですが、良い取材が出来たんじゃ無いですか？」

射命丸

「そうですね！それでは後1時間で抽選会が行われるので、一先ずこの場からはお別れ致しましょう！」

抽選会場

キヨン

「俺達のような一般人がこんなのに参加して大丈夫だろうか・・・」

木下（弟）

「先ず、ワシ達は最下位確定つばいじゃろう・・・」

ハルヒ

「目指すは勿論優勝よ！」

明久

「その自信は何処から出てきてるんだ・・・？」

ミク

「緊張するね・・・」

律

「大丈夫だって！優勝は無理でも1勝くらいは出来るんじゃないか？」

唯

「りっちゃん・・・凄いな」

スカリエッティ

「私はここに居て良いものなのだろうか・・・」

はやて

「かまへんかまへん、部隊長命令や」

スカリエツィ

「こんな所で部隊長命令を乱用しないでほしいのだが・・・」

なぎさ

「結構人が沢山居るね」

りん

「大丈夫かな・・・」

つぼみ

「私がここに居ることが場違いな気が・・・」

ざわざわとする会場内・・・そして・・・。

アナウンス

「これより、野球選手権抽選会を始めたいと思います」

アナウンスの音が響き渡る。

豊臣

「遂にこの時が来たか」

リリカルショーバイ

「緊張してきました・・・」

リーグ戦の書かれた紙が現れる。

アナウンス

「まずはここに居る12チームを6チーム2組に分かれてもらい、リーグ戦を行って貰います。そしてその中から上位3チーム、合計6チームが決勝トーナメントに進出出来ます。因みに延長は12回で同点の場合は引き分けとし、勝率が同じの場合は直接対決で勝ったチームが上位となります」

一通りの説明が終了し、遂に抽選が始まる。

アナウンス

「まずはマリオファミリーの代表者は前へ」

マリオファミリーの代表者、マリオがくじ引きの前に立ち、くじ引きを引く。

マリオ

「マリオファミリー」A・5」です」

アナウンス

「マリオファミリーは」A・5」です」

A - 5の所にマリオファミリーの札が置かれた。

アナウンス

「続きまして、銀魂連合軍」

銀魂連合軍の代表者、坂田銀時がくじ引きを引く。

銀時

「えーと、銀魂連合軍「B - 1」」

そして、次々と抽選が決まっていく。

当麻

「とある幸運の星「B - 4」」

なのは

「リリカルストライカー「A - 3」」

ミク

「音楽愛好会「A - 6」です」

マルス

「スマブラオールスター「B - 3」」

家康

「戦国一騎当千BASARA」B-5「じゃ！」

そして・・・。

アナウンス

「続きまして、作者同盟軍」

翡翠 煉

「来ましたね」

ダンテ

「それではお願いしますよ」

疾風の音

「了解です」

作者同盟軍の代表者、疾風の音がくじ引きを引く・・・。

疾風の音

「作者同盟軍」A-2「です」

パルポン

「「A-2」と言っことは・・・」

しら

「開幕戦か？」

ミゲール

「うん、そうだろうな」

そして、抽選会が終わり……。以下のように決まった。

A組（順不同）

マリオファミリー

東方ファンタジア

リリカルストライカーズ

プリキュアスターズ

音楽愛好会

作者同盟軍

B組（順不同）

スマブラオールスター

テイルズヒーローズ

戦国一騎当千BASARA

銀魂連合軍

とある幸運の星

BTS団

アナウンス

「そして抽選の結果、リーグ戦の最初の試合が此方です」

A組

第1試合

東方ファンタジア「A-1」

vs

作者同盟軍「A-2」

第2試合

リリカルストライカーズ「A-3」

vs

プリキュアスターズ「A-4」

第3試合

マリオファミリー「A - 5」

vs

音楽愛好会「A - 6」

B組

第1試合

銀魂連合軍「B - 1」

vs

BTS団「B - 2」

第2試合

スマブラオールスター「B - 3」

vs

とある幸運の星「B - 4」

第3試合

戦国一騎当千BASARA「B - 5」

vs

テイルズヒーローズ「B - 6」

アナウンス

「抽選会と開幕戦のカードが決定しました。これより3日後に試合を行います。それでは解散します、3日後にお会いしましょう」

レン

「ねえ、俺達終わってるような感じだけど・・・1勝出来るかな・・・」

梓

「無理っぽいかな・・・」

キヨン

「なあ・・・これ大丈夫なのか？」

明久

「ははは・・・はあ・・・」

魔理沙

「相手は作者同盟軍か」

霊夢

「相手からして余裕っぽいわね」

竜斗

「余裕とは・・・聞き捨てならないな」

ここで東方ファンタジアと作者同盟軍が衝突した。

カイ・R・銃王

「確かに俺達は普通の作者だし、人数も少ないし、力もない」

のりりん

「だけど、結束力ならどのチームにも負けません！」

霊夢

「そりゃ楽しみね」

アリス

「もう、霊夢は・・・3日後ね。いい試合をしましょう。勝っても負けても恨みっこ無しよ」

東方ファンタジアのチームはその場を後にした。

無幻

「いきなり強豪ですね」

疾風の音

「そうですね・・・さあ！3日後に備えてミーティングだ！」

作者同盟軍

「おお！」

次回！開幕戦プレイボール！

予選A組 第1試合 スタメン発表(1回(前書き))

漸く試合が始まります!

尚、アナウンスや実況と解説は 選手や 投手と言わせていま
す。

例

上条当麻 当麻選手

博麗霊夢 霊夢投手

クレス・アルベイン クレス選手

予選A組 第1試合 スタメン発表①回

抽選が終わって3日が経った。遂にこの日が開幕戦となる……。

東方ファンタジアと作者同盟軍の開幕戦。果たして勝利するのは……。

カイ・R・銃王

「スタメンとかはどうします?」

翡翠 煉

「そうですね、人数が少ないと色々大変になりますからね」

疾風の音

「ああ、もう決まってるからスタメン」

しら

「早っ!」

疾風の音

「これでも1日悩んだ、だけど自信がある」

ダンテ

「よほど自信があるみたいですね」

パルポン

「それじゃ・・・行くか」

射命丸

「どうも皆さん！こんにちは！清く正しい射命丸文です！今日は実況として開幕戦をお伝えします！今回はゲスト解説としてマリオさんと高町なのはさんに来ていただきました！宜しくお願いします！」

マリオ・なのは

「宜しくお願いします」

射命丸

「さてマリオさん、開幕戦の雰囲気はどうですか？」

マリオ

「そうですね・・・。やっぱり開幕戦と言うこともあってか、ただならぬ緊張感に包まれてますね」

射命丸

「ほうほう・・・。ではなのはさん、両チームの印象は？」

なのは

「そうですね、作者同盟軍の人達は結束力が固いと思いますね。東方ファンタジアは個々の力が凄いです。チームワークにちよつと難ありみたいです」

射命丸

「そろそろスターティングメンバーの発表です。先攻は東方ファンタジア、後攻は作者同盟軍となっています」

アナウンス

「東方ファンタジアのスターティングメンバーを発表します」

- 1番 右翼 レミリア・スカーレット
- 2番 遊撃 魂魄妖夢
- 3番 中堅 八雲藍
- 4番 一塁 星熊勇儀
- 5番 左翼 風見幽香
- 6番 三塁 藤原妹紅
- 7番 二塁 紅美鈴
- 8番 捕手 蓬莱山輝夜
- 9番 投手 博麗霊夢

翡翠 煉

「ガチメンバー過ぎるw」

ゆうちゃん

「俺達もガチメンバーを組んでるから負けるわけには行かないな」

アナウンス

「それでは、作者同盟軍のスターティングメンバーを発表します」

1番 遊撃 リリカルシヨールバイ
2番 二塁 カイ・R・銃王
3番 中堅 竜斗
4番 一塁 しら
5番 右翼 ミゲール
6番 三塁 無幻
7番 捕手 izumi
8番 左翼 ダンテ
9番 投手 ゆうやん

アリス

「向こうも良いメンバーね」

魔理沙

「私はスタメンじゃないのか・・・」

審判

「それでは、両チーム集まってください」

射命丸

「さあ！スタメンも発表されていよいよ試合開始の時を待つのみです！」

審判

「それでは試合を開始します。お互いに礼！」

両チーム

「宜しくお願いします！」

作者同盟軍が守備に入った。

射命丸

「さあ！いよいよ開幕です！果たして勝利するのはどちらでしょう！」

ゆうちゃん

「それにしても……ガチだなあ……」

アナウンス

「ただいまより、東方ファンタジア対作者同盟軍の試合を開始します」

1番 ライト レミリア

アナウンスの声がレミリアの名前をコールする。

レミリアは右側のバッターボックスに立つ。

レミリア

「さてと、先頭打者ホームランを狙おうかしら」

ゆうちゃん

「いきなりレミリアか・・・」

izumi

（ゆうちゃんさん！まずは内角を攻めましょう！）

ゆうちゃん

（OK！）

射命丸

「さあ・・・ゆうちゃん投手振り被って・・・第1球目！」

ゆうちゃん

「はあっ！」

バシンッ！

審判

「ストライク！」

レミリア

(内角を攻めてきたわね・・・)

マリオ

「ゆうやん投手、内角を攻めましたね」

なのは

「打ち損じを狙ってますね」

izumi

(よし！もう1回内角を！)

ゆうやん

(よし・・・)

ゆうやんはizumiのサインに頷く。

第2球目

ゆうやん

「はあっ！」

バシンッ！

審判

「ボール！」

ゆうやん

「外れたか・・・」

その後3球目、4球目は共に外れ3ボール1ストライク。

射命丸

「ゆうやん投手、ここで先頭打者は出したくない状況です」

ゆうやん

（そろそろ変化球行きます！）

izumi

（分かりました！）

ゆうやんが投じた第5球目。

ゆうやん

「ふっ！」

レミリア

「貰った！」

レミリアがその打球を打つ。

しかし・・・。

ガツンッ

レミリア

「あっ！」

ゆうやんが投じたボールは……内角のスライダーだった。

リリカルショーバイ

「はいつ！」

しら

「よし！」

一塁審判

「アウト！」

ゆうやん

「OK！まず1アウトだな」

2番 ショート 妖夢

妖夢

「ここは打ちますよ！」

妖夢は左側のバッターボックスに立った。

ゆうちゃん

「よし！行くぞ！」

ゆうちゃんの妖夢に対して第1球目。

ゆうちゃん

「はあっ！」

妖夢

「はあっ！」

ガキンツ！

審判

「ファール！」

翡翠 煉

「外のボール球を打つなんて……」

のりりん

「未熟者ね」

その後、1球ストライクが入って、妖夢を追い込んだゆうちゃん。

ゆうちゃん

「これで三振だ！」

妖夢

「それを待っていたんですよ！」

カキンッ！

カイ・R・銃王

「届かねえ！」

ゆうちゃんのフォークを上手く持っていった妖夢。

妖夢

「やりました！」

ゆうちゃん

「上手く持っていったな」

izumi

「次は中軸だから、注意したい所ですね」

3番 センター 藍

のりりん

「何とか併殺打を狙いたいですね」

疾風の音

「うん、だけど相手はそう簡単に併殺は打たせない感じがする・・・」

「

射命丸

「ここは手堅くバントでしょうか、それとも打ってくるのでしょうか・・・」

マリオ

「次は4番ですから1点でもと言うならバントで行く可能性が有りますよ」

藍

「さて、どうしようか・・・」

右側に立った藍。ゆうやんの答えは・・・。

ゆうちゃん

(ここは打ってくるだろうな・・・ここは変化球で)

izumi

(決まりました?)

ゆうちゃんは頷く。

注目の初球。

ゆうちゃん

「はあっ!」

藍

「!」

コンッ

izumi

「えっ!?!」

ゆうちゃん

「バント!?!」

送りバントを試みた東方ファンタジア。見事に成功し2アウトながら2塁となり4番が打席に入る。

4番 ファースト 勇儀

ゆうやん

「ここで1番怖いバッターが来ちゃったよ……」

勇儀

「さて！1点取りに行こうか！」

無幻

「絶対に打ち取る！」

ゆうやん、勇儀に対して1球目。

ゆうやん

「おりやつ！あつ！」

izumi

「しまった！失投だ！」

勇儀

「貰った！」

カキンッ！

射命丸

「おっと！勇儀選手の打球がライトの上を越えていった！」

ミゲール

「凄いパワーだな！」

射命丸

「今、2塁ランナーがホームイン！勇儀選手も2塁へ行きました！」

星熊勇儀、2塁適時打！

1回表

東方ファンタジア 1

作者同盟軍 0

ゆうちゃん

「失投した……」

疾風の音

「のりりんさん、早いけど投球練習をした方が良いでしょう」

のりりん

「ゆうちゃんはどうするんですか？」

疾風の音

「まだ投げさせるけど、崩れたら交代せざるおえないかな」

射命丸

「勇儀選手のパワー凄いですね」

マリオ

「失投とはいえ彼処まで持っていくますから、やはりチームの主砲ですね」

5番 レフト 幽香

ゆうやん

「これはまた・・・」

izumi

「怖いバッターが来たな・・・」

幽香

「ふふふ・・・さあ軽く行きましょうか」

ゆうやん

（デッドボールならまず退場物だな・・・）

izumi

（だけど、風見は足が遅いから、わざと打たせると言う方法もあるが・・・そうだ！）

そう思ったが突如、izumiはゆうやんにサインを送る。

ゆうちゃん

(ん？成る程！)

izumiのサインに首を頷いたゆうちゃん。

そして注目の初球。

ゆうちゃん

「はっ！」

幽香

「真ん中！貰った！」

ブンッ！

幽香

「なっ！嘘！」

ほぼ直角のフォークを空振りする幽香。

ゆうちゃん

「やっぱり、幽香さんはパワーヒッターだからフルスイングして空振りの可能性が高い！」

そして幽香を2球で追い込み……。

審判

「ストライク！バッターアウト！」

ゆうやん

「ふう……」

幽香を見事三球三振で打ち取った。

射命丸

「3アウトとなって、ここで攻守交代です。東方ファンタジアは4番の勇儀選手の2塁適時打で1点を先制しました！そして後攻の作者同盟軍の攻撃が始まります！」

1回裏 作者同盟軍の攻撃

1番 ショート リリカルシヨバ

対する東方ファンタジアの先発は博麗霊夢

霊夢

「さっさと終わらせるわよ」

リリカルシヨールバイ

「そう簡単に終わらせません！」

疾風の音

（リリカルさん、奇襲をしかけて下さい）

リリカルシヨールバイ

（奇襲ですか？）

左側のバッターボックスに立つリリカルシヨールバイ。

リリカルシヨールバイ

（上手く行きますか？）

疾風の音

（あっちはこっちを嘗めて掛かってきてるから・・・上手く行く筈です）

博麗霊夢の第1球目

霊夢

「やっ！」

バスンッ

審判

「ボール！」

リリカルシヨバ

「疾風の音さんの言った通りだ……」

疾風の音

「やっぱり初球を外しに行っただか」

カイ・R・銃王

「一体どのようなアドバイスを？」

疾風の音

「リリカルさんに言ったけど、向こうのチームは警めて掛かってきているから、中に入ってきたボールを……」

コンッ

霊夢

「しまった！」

疾風の音

「セーフティバントを行って欲しいって言ったんですよ」

射命丸

「リリカルショーバイ選手のセーフティバントで先頭打者が出塁しました！」

2番 セカンド カイ・R・銃王

霊夢

「なっ……なかなかやるじゃない」

カイ・R・銃王

「さあ！繋ぐぞ！」

射命丸

「出鼻を挫かれた霊夢投手！気を取り直して1球目！」

霊夢

「やつ！」

バスンツ

審判

「ストライク！」

射命丸

「監督兼選手の疾風の音監督は盗塁とかを指示するのでしょうか？」

なのは

「どうでしょうか、送りバントをして中軸と言う手もありますね」

霊夢

「さあ、追い込んだわよ」

2ボール2ストライクと追い込まれたカイ・R・銃王。

霊夢

「はあっ！」

カイ・R・銃王

「くっ！」

カキンツ

平凡な外野フライを打ち上げてしまったカイ・R・銃王。

藍

「1アウトだ」

カイ・R・銃王がセンターフライに打ち取られた。

3番 センター 竜斗

霊夢

「中軸もパツパと片付けるか・・・」

竜斗

「絶対に繋ぐ！」

霊夢

「行くわよ・・・」今だ！「はあっ！」

バスンツ

輝夜

「やっ！」

妖夢

「！」

二塁審判

「セーフ！」

射命丸

「疾風の音監督が盗塁を決行！見事に成功しました！」

マリオ

「動きましたね。」

なのは

「霊夢投手がどのような投球をするのか注目ですね」

霊夢

「くっ！ちょっと甘く見てたのかも知れないわ」

疾風の音

「これで向こうも全力でくる筈……」

霊夢

（アリスの言う通り、嘗めて掛かったら痛い目に合う……集中して中軸を打ち取る！）

竜斗

「目が変わった・・・」

バシンッ！

審判

「ストライク！」

竜斗

「外いっぱいか！」

ミゲール

「コントロールが良いな」

アリス

「霊夢もやる気になったみたいだし、勝負はこれからよ」

審判

「ストライク！バッターアウト！」

竜斗

「全くタイミングが合わなかった・・・」

竜斗が三振で倒れ2アウト、しかしランナー2塁で同点のチャンス。

4番 ファースト しら

しら

「まずは同点にする。勝ち越すのはそれからだ」

霊夢

「行くわよ・・・やっ!」

しら

「だっ!」

ガキンツ!

審判

「ファール!」

ゆうやん

「付いて行きましたね」

疾風の音

「付いて行くだけじゃ点は取れない。だけど付いて行けば色んな対応が出来るよ」

射命丸

「現在、しら選手に対して1ボール2ストライクと追い込みました

霊夢投手「

なのは

「ですがしら選手は2ストライクになった後、3球粘ってますね」

霊夢

「さっさと打ち取られなさいよ！」

しら

「断る！」

ガキンツ！

審判

「ファール！」

その後もファールで粘るしら。その後も粘り……。

11球目……。

霊夢

「はあっ！」

しら

「だあっ！」

ガキッ！

妖夢

「うっ！」

射命丸

「しら選手！11球粘ってショートを抜けてヒット！」

リリカルシヨールバイ

「行け・・・ない！」

幽香

「マスタースパークの応用でボールを投げただけど・・・中々ね」

疾風の音

「これはヤバイなあ・・・」

ダンテ

「2アウト1塁3塁、ヒット1本で同点だけど打ち取られたらまずるいきそつだな・・・」

疾風の音

「たとえずるずる行っても俺は皆を信頼し、信用する」

5番 ライト ミゲール

射命丸

「これで2アウトながら1塁3塁です！作者同盟軍は一打出れば同点、逆転の場面です！」

霊夢

「悪くても同点に押さえないと・・・」

ミゲール

「ふう・・・」

アリス

「霊夢、ここは何としても押さえるのよ」

霊夢

「はあっ！」

ミゲール

「ここだ！」

カキンッ！

審判

「フアール！」

ミゲール

「惜しいな・・・」

射命丸

「今のは惜しかったです！後ちよつとで適時打でしたのに」

霊夢

「なら・・・やっ！」

ミゲール

「ぐっ！」

ガキツ！

ミゲール

「しまった！」

美鈴

「オーライ、オーライ」

パスッ

審判

「アウト！」

射命丸

「作者同盟軍、同点のチャンスをものに出来ませんでした！しかし、まだ初回です。さあ！試合はまだ続きますよ！」

次回！試合は更に加熱する！

予選A組 第1試合 2回～3回(前書き)

次から省略することも考えないと・・・。

予選A組 第1試合 2回～3回

1回が終了し東方ファンタジアが作者同盟軍を1対0と1点をリードしている状況。

しかし試合はまだ始まったばかり。ここから試合は加熱する！

射命丸

「2回表、東方ファンタジアの攻撃です！果たして追加点を取れるのか！」

2回表 東方ファンタジアの攻撃

6番 サード 妹紅

ゆうやん

「もう点はやらない！絶対に打ち取る！」

妹紅

「そうか・・・なら私も全力で答えよう！」

慧音「観客席」

「妹紅！頑張れ！」

ゆうちゃん

「行くぞ！はあっ！」

妹紅

「おりゃあ！」

カキンッ！

審判

「ファール！」

ゆうちゃん

「結構速い球だけどな・・・」

妹紅

（速いな・・・）

その後4球目までで2ボール2ストライクと追い込んだゆうちゃん。

射命丸

「妹紅選手を追い込んだゆうちゃん投手！打ち取ることが出来るのか！」

izumi

(外の直球！これでボテボテのゴロに打ち取れる！)

ゆうやん

「よし！」

5球目！

ゆうやん

「はあっ！」

妹紅

「やあっ！」

カキンッ！

ゆうやん

「流された！」

izumi

「しまった！ヒットになる！」

カイ・R・銃王

「させるかあ！」

バシンツ！

カイ・R・銃王

「だあ！」

しら

「ナイス！」

審判

「アウト！」

妹紅

「えっ！アウトか！？」

射命丸

「カイ選手！ヒット性の当たりをダイビングキャッチ！これはファインプレーです！」

カイ・R・銃王

「よし！」

ゆうやん

「カイさんナイスファインプレー！」

カイ・R・銃王

「さあ！どんどん来い！」

7番 セカンド 美鈴

ゆうちゃん

「調子出てきたな……」

美鈴

「むむむ……これはやばいですねえ……」

その結果……。

審判

「ストライク！バッターアウト！」

美鈴

「あつ……やっぱり駄目でした」

三球三振に打ち取られた美鈴だった。

咲夜「観客席」

「美鈴……」

翡翠 煉

「ゆうちゃんさん調子出てきましたね」

パルポン

「だが、まだ序盤だから調子に乗りすぎたら結構やばいぞ」

8番 キャッチャー 輝夜

輝夜

「何で私が呼ばれたのか分からないわ・・・」

ゆうちゃん

(さて・・・どうします?)

izumi

(変化球主体で攻めてみればどうですか?)

ゆうちゃん

(OKです!)

ゆうちゃん、輝夜に対しての第1球目。

ゆうちゃん

「はあっ!」

パスンッ

審判

「ボール！」

izumi

「見極めた？」

輝夜

「さて、どうしようかしら」

ゆうちゃん

（何を考えているんだろうか）

第2球目

ゆうちゃん

「やつ！」

輝夜

「それっ！」

カコンッ

審判

「ファール！」

そして輝夜も追い込まれ……。

審判

「ストライク！バッターアウト！」

ゆうやん

「よっしゃー！」

射命丸

「ゆうやん投手！この2回表は三者凡退で2つの三振を奪いました
！」

2回裏 作者同盟軍の攻撃

6番 サード 無幻

霊夢

「さっさと行くわよ、負けられないし」

無幻

「必ず打ってやる」

霊夢

「それはどっかしらー」

バスンツ！

審判

「ボール！」

霊夢

「えっ！ストライクじゃないの！？」

射命丸

「霊夢投手、今のボール球をストライクと抗議している様ですね」

マリオ

「微妙な所ですよね」

霊夢

「まあ打ち取れば文句は無いわね！」

無幻

「だあ！」

カキンツ！

射命丸

「良い当たり！」

妖夢

「取れない球などあんまり無い！」

バシンッ！

妖夢もヒット性の当たりをキャッチする。

妖夢

「勇儀さん！」

しかし・・・。

勇儀

「何処に投げているんだい！？」

妖夢の投げたボールは勇儀の上を通り過ぎた。

射命丸

「あーっと！妖夢選手が悪送球でエラーが記録されました！」

霊夢

「この未熟者！」

妖夢

「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい！……！」

射命丸

「妖夢選手のエラーで初回に続いて先頭打者が出塁しました！」

7番 キャッチャー izumi

霊夢

（確かあいつは足が速かったわね……。併殺打を狙いたいけど、無理かしら……）

izumi

「考え事か？」

輝夜

（霊夢！ここを狙いなさい！）

構えている場所を狙えと言ってきた輝夜。

霊夢

（大丈夫なの？）

輝夜

（大丈夫よ。多分……）

霊夢

(多分かよ! まあいいわ)

射命丸

「先頭打者を出した東方ファンタジア。ここは併殺打を狙いたい所です!」

霊夢

「だあつ!」

izumi

「はあつ!」

ガキンツ!

izumi

「しまった!」

美鈴

「よつと。はい!」

無幻

「なっ!」

妖夢

「はい！」

勇儀

「よっしゃー！」

izumi

「ゲッツーやられた！」

射命丸

「注文通りのダブルプレーです！」

なのは

「妖夢選手、これで汚名を返上したでしょうか」

マリオ

「ここでの併殺打は試合に影響しそうですね」

izumi

「一番打ってはいけない球を打ってしまった・・・」

疾風の音

「次に繋ぐ様に努力すれば良いよ」

8番 レフト ダンテ

ダンテ

「併殺打が効くなあ・・・」

霊夢

「さあ！行くわよ！」

バシンッ

審判

「ストライク！」

霊夢

「どンドン行くわよ！」

射命丸

「あやや・・・霊夢投手物凄い気迫ですね」

マリオ

「ガス欠にならなければ良いんですが・・・」

バシンッ！

審判

「ストライク！バッターアウト！」

ダンテ

「くっ……全く動けなかった……」

射命丸

「作者同盟軍はランナーを出しましたが、結局3人で攻撃が終了しました。2回が終了し1対0で東方ファンタジアがリードしています」

3回表 東方ファンタジアの攻撃

9番 ピッチャー 霊夢

ゆうやん

「まだ行ける！」

霊夢

「バッティングも勝ってやるわ！」

射命丸

「霊夢選手、打つ気満々ですね」

なのは

「空回りをしない様にしませんとね」

ゆうちゃん

「はあっ!」

霊夢

「やっ!」

バシンッ!

審判

「ストライク!バッターアウト!」

射命丸

「ゆうちゃん投手!三者連続三振!これは好調です!」

霊夢

「あゝも!何で当たらないのよ!」

ゆうちゃん

(そりゃブンブン振り回しても当たらないぞ・・・)

1番 ライト レミリア

レミリア

「今度こそ打ってやるわ!」

ゆうちゃん

「さて・・・どうするか」

射命丸

「レミリア選手の第1打席ショートゴロに打ち取られています」

ゆうちゃん

「はあっ！」

バシンッ！

審判

「ボール！」

レミリア

「明らかなボール球ね」

ゆうちゃん

「誘い球は乗ってこないか・・・なら！これだ！」

バシンッ！

審判

「ストライク！」

レミリア

「前の打席で私が打ち取られた球か……」

ゆうちゃん

（見たと言う事は……球種が減ってきている……）

その後、レミリアを2ボール2ストライクと追い込む。

射命丸

「ファールで粘っていますレミリア選手。ゆうちゃん投手もレミリア投手に対して9球目です！」

ゆうちゃん

「これだ！」

レミリア

「貰った！」

ブンッ！

レミリア

「えっ!?!」

審判

「ストライク！バッターアウト！」

izumi

「よし！フォークを空振った！」

射命丸

「ゆうちゃん投手！四者連続三振！レミリア選手をフォークで打ち取った！」

のりりん

「ゆうちゃんさん調子良いですね」

疾風の音

「このままこの調子で行って欲しいな」

2番 ショート 妖夢

妖夢

（私は守備でミスをしてしまった・・・だから、打って帳消しにする！）

ゆうちゃん

「さあ・・・行くぞ！」

妖夢

「打てない球などあんまり無い！」

カンッ

妖夢

「あっ」

izumi

「はい、3アウト」

射命丸

「東方ファンタジアは3回も3人で攻撃が終了しました。作者同盟軍の攻撃は9番のピッチャーゆうちゃん投手からです！」

マリオ

「ここまで投手戦になってますね」

なのは

「両投手を打ち崩すのは難しいですよ」

3回裏 作者同盟軍の攻撃

9番 ピッチャー ゆうちゃん

ゆうちゃん

「投げるのは良いけど打つのはどうかな・・・」

霊夢

（さっきのお返しよー！）

ゆうちゃん

「だあ！」

バシンッ！

審判

「ストライク！」

ゆうちゃん

「うわ・・・これはキツイ・・・」

霊夢

「次はこれよー！」

ゆうちゃん

「だあ！」

バシンッ！

審判

「ストライク！」

ゆうちゃん

「ぐう……」

霊夢

「止め！」

ゆうちゃん

「どりゃあー！」

カキンッ！

霊夢

「えっ！？」

射命丸

「ゆうちゃん選手！ポテンと落ちるレフト前ヒット！」

幽香

「なかなかやるわね……」

妹紅

「次は1番だから気を抜かないな」

1番 ショート リリカルショーバイ

霊夢

「最初は出し抜かれたけど、この打席は好きな様にさせないわよ」

リリカルショーバイ

「この打席も打たせてもらいます！」

カウントはフルカウント。四球を出せば東方ファンタジアはピンチとなる！

霊夢

「行くわよ！」

リリカルショーバイ

「！」

バシンッ！

審判

「ボール！フォアボール！」

射命丸

「四球を出し、ノーアウト1塁2塁！作者同盟軍は同点逆転のチャ

ンスです！」

2番 セカンド カイ・R・銃王

霊夢

(少なくとも同点に留めないと！)

カイ・R・銃王

「これは目立って打つ！」

霊夢

「行くわよ！はあっ！」

カイ・R・銃王

「はあっ！」

カキンッ！

射命丸

「これはタッチアップには十分な外野フライですね」

藍

「1アウトだな」

ゆうやん

「今だ」「3塁へ」

1アウト1塁3塁で作者同盟軍は中軸に回ってきた。
一打出れば同点逆転の場面。

3番 センター 竜斗

霊夢

「ヤバい！何としてでも抑えないと！」

しかし、気が動転しているのか3ボールと全く合わなくなった。

霊夢

「くっ！」

輝夜

「霊夢！あまりイライラしないで！」

霊夢

「はあっ！」

輝夜

「霊夢！」

竜斗

「貰ったあ！」

カキイン！

射命丸

「竜斗選手打ったあ！ボールは右中間真っ二つ！」

ゆうちゃん

「よし！まず同点！」

リリカルシヨーバイ

「3塁を回ります！」

レミリア

「もう3塁を回ってる！」

リリカルシヨーバイ

「逆転しました！」

射命丸

「作者同盟軍が逆転！竜斗選手が2点二塁適時打！」

3回裏

東方ファンタジア 1

作者同盟軍

2

霊夢

「打たれたわね・・・」

輝夜

「ドンマイよ霊夢、まだ諦めるには早いわ」

霊夢

「この回を何とか終わらせるわ」

4番 ファースト しら

しら

「追加点狙ってやる！」

霊夢

「何とかしないと・・・はあっ！」

しら

「甘い球！ここだ！」

カキイン！

霊夢

「あっ！」

輝夜

「しまった！」

しらの放った打球はレフトに大きなアーチが描かれた。

三塁審判

「ホームラン！」

射命丸

「しら選手2ランホームランです！」

マリオ

「綺麗なアーチでしたね」

なのは

「一気に持っていきましたね」

しら

「よし！」

竜斗

「ナイスホームラン！」

3回裏

東方ファンタジア 1

作者同盟軍 4

アリス

「これは予想外ね……。霊夢を変えた方が良いかしら……」

魔理沙

「ここは霊夢に任せた方が良い」

アリス

「そうね、暫くは霊夢に任せるわ」

5番 ライト ミゲール

霊夢

「平常心平常心……」

輝夜

「何時もの様にすれば良いわよ」

霊夢

「そうね」

ミゲール

「ここから気を抜かない様にしないと……」

霊夢

「はあっ！」

バシンッ！

審判

「ストライク！」

ミゲール

「迷いが消えた!？」

霊夢

「皆の逆転を……」

バシンッ！

審判

「ストライク！」

ミゲール

「くっ……」

霊夢

「はあっ！」

ミゲール

「くっ！」

バシンッ！

審判

「ストライク！バッターアウト！」

霊夢

「待つしかないわね！」

なのは

「霊夢投手に気迫が戻ってきましたね」

マリオ

「しかし、この4点は大きいですよ」

6番 サード 無幻

霊夢は無幻 を追い込み……。

霊夢

「だあ！」

無幻

「ぐっ！」

ガキンツ

妹紅

「よし！これで3アウトだな」

射命丸

「これで3アウトとなりましたが作者同盟軍は竜斗選手の2点二塁適時打としら選手の2ランホームランで4点を奪い、逆転に成功しています！」

次回は中盤戦！試合は更に熱くなる！

予選A組 第1試合 4回～6回(前書き)

すみません！更新が物凄く遅れてしまいました！

最近ちょっと風邪気味です(^^;)

次は必ず近い内に！

予選A組 第1試合 4回〜6回

試合は中盤戦、作者同盟軍が3回に4点を奪い逆転成功する。

現在4対1で作者同盟軍が東方ファンタジアをリードしている。

更に試合が更なる展開を迎える！

射命丸

「さあさあ試合は4回に入りました！まだまだ試合は面白くなりま
すよ！」

4回表 東方ファンタジアの攻撃

3番 センター 藍

藍

「成る程な・・・結構良い球を投げている」

現在1ボール2ストライク、2球ファールで粘り6球目。

ゆうちゃん

「だあ！」

藍

「はあっ！」

カキンッ！

ゆうちゃん

「あれを打つか!？」

射命丸

「藍選手!見事なレフト前ヒット!」

マリオ

「東方ファンタジアは初めて先頭打者を出しましたね」

なのは

「内角のストレートを綺麗に打ち返しましたね。凄いです」

4番 ファースト 勇儀

射命丸

「ここで先制点をあげている4番、勇儀選手が右バッターボックスに立ちます」

ゆうちゃん

「さて、ここで4番か」

勇儀

「この打席も打たせて貰うよ」

ゆうちゃん

「どうかな・・・はあっ！」

勇儀

「くっ！」

バシンッ！

審判

「ストライク！」

ゆうちゃん

「もう点はやれないからな・・・最初から飛ばしていく！」

勇儀

「良いねえ・・・その気迫・・・ワクワクするよ！」

ガキンッ！

審判

「ファール！」

射命丸

「勇儀選手追い込まれました！」

なのは

「エース対4番は熱い戦いですね」

マリオ

「どのような展開になるでしょうか・・・」

その後は2ボール2ストライクなり、5球目！

ゆうやん

「だあっ！」

勇儀

「はあっ！」

バシンッ！

審判

「ストライク！バッターアウト！」

ゆうちゃん
「よし！」

見事、三振を奪った。これでゆうちゃんの三振の数は6つとなった。

5番 レフト 幽香

ゆうちゃん

「休憩させる暇は無いなあ・・・」

izumi

(併殺で打ち取りましょう！)

ゆうちゃん

(よし・・・)「だあっ！」

幽香

「甘いわね！」

カキンッ！

ゆうちゃん

「力で持っていかれた！」

射命丸

「幽香選手！力でライト前にヒット！」

マリオ

「低めを流し打ちで持っていく力は凄いですね」

6番 サード 妹紅

ゆうやん

「誘い球に乗ってこないとは……」

妹紅

「選球眼は中々良いからね。さて、次は何かな？」

現在3ボールと誘い球に乗ってこない妹紅にゆうやんは焦りの色が
見えた。

izumi

「焦らないでストライクを狙えば良いですよ」

ゆうやん

「そうですね……はあっ！」

バシンッ！

審判

「ストライク！」

ゆうやん

（振らないか・・・一体何を狙っているんだ？）

そして続く5球目。

ゆうやん

「はあっ！あっ！」

izumi

「高い！」

バシンッ

審判

「ボール！フォアボール！」

この四球で1アウト満塁でホームランで逆転される場面になってしまった作者同盟軍。

射命丸

「作者同盟軍は大ピンチを迎えています！作者同盟軍はこの場面を抑える事が出来るのか！」

7番 セカンド 美鈴

美鈴

「こんな場面で私が来るなんて・・・」

izumi

「最低でも1点差に抑えよう」

ゆうちゃん

「リードを保って終盤を向かいますよー！」

魔理沙

「この場で美鈴なんて・・・代打を出すか？」

霊夢

「うーん、レミリアはどうしたいの？」

レミリア

「美鈴に任せましょう。彼女もこの場なら燃えてるだろうし」

ゆうちゃん

「はあっー！」

美鈴

「だあっ！」

ガキンツ！

審判

「ファール！」

このファールで1ボール2ストライクと追い込まれた美鈴。

射命丸

「美鈴選手！追い込まれました！ここは1点でも返したい所です！」

ゆうやん

「決める！はあっ！」

美鈴

「私も東方ファンタジアのスタメン！ここで打たなきゃ・・・」

カキンツ！

美鈴

「誰が打つ！」

リリカルショーバイ
「届いて！」

打球はリリカルショーバイのグラブの前を抜けた。

ゆうやん
「くっ！」

藍
「1点を返したぞ！」

魔理沙
「よっしゃ！回れ回れ！」

しかし……。

ダンテ
「行かせるかあ……！」

幽香
「あっ！危ないわね……」

霊夢
「そうだったわ……幽香、足が物凄く遅かったわね……」

アリス

「だけどまだ満塁。このまま逆転を狙いましょう」

美鈴の適時打で1点を返した東方ファンタジア。

4回表

東方ファンタジア 2

作者同盟軍

4

尚も1アウト満塁の大チャンス。このチャンスを生かせるか。

8番 キャッチャー 輝夜

ゆうちゃん

「ふう・・・疲れるなあ・・・。これ程固められた打者だと・・・結構来る」

疾風の音

「・・・中盤辺りに俺も選手として出るから・・・翡翠さん、ブルペンに行きましょう」

翡翠 煉

「えっ!?!俺も!?!」

疾風の音

「翡翠さんも投手登録しておいて良かった……のりりんさんにも終盤に出て貰うよ」

のりりん

「了解しました！」

射命丸

「おっと、疾風の音選手がプルペンに入りましたね」

マリオ

「捕手登録とじていますからね」

輝夜

「えい！」

ガキンツ

審判

「ファール！」

ゆうちゃん

「ただついていけば何とかが打ち取れる！」

輝夜

(仕掛けるわよ、幽香)

幽香

(無理かもしれないけど、やってみるわ)

カウントは3ボール2ストライクのフルカウント。

輝夜は何を仕掛ける気なのだろうか。

ゆうやん

「はあっ！」

幽香

「！」

輝夜

「行くわよ！」

コンッ

ゆうやん

「なっ！」

izumi

「スクイズ!？」

射命丸

「東方ファンタジア、スクイズを仕掛けてきた！」

ゆうやん

「行かせるか！」

グラブトスをするゆうやん。

izumi

「おりゃあ！！！」

幽香

「だあっ！」

ズザー！

審判

「アウト！」

ゆうやん

「よし！」

izumi

「スクイズとか・・・吃驚したぞ・・・」

アリス

「仕掛けたけど・・・通用しないか・・・」

早苗

「次は霊夢さんですね。代打送りますか？」

小町

「うーん・・・霊夢打つ気があるから変えない方が良くもしいねえ」

スクイズ失敗で2アウト。しかし満塁の場面は変わらない。

9番 ピッチャー 霊夢

ここで投手の霊夢が打席に立つ。

ゆうちゃん

「よし・・・行くぞ・・・」

霊夢

「ここで打たなきゃね・・・」

パルポン

「ここで点を取られたら流れが向こうに行ってしまうな」

のりりん

「そうですね、少なくとも1点差を保ちたいですね」

ゆうちゃん

「だあっ！」

霊夢

「ここだあ！！！！」

ガキンツ！

フラフラと上がる霊夢の打球に竜斗がダッシュする。

竜斗

「あっ！」

しかし不運な事に、打球は竜斗の前に落ちた。

妹紅

「よし！1点差だ！」

ポテンと落ちる霊夢の適時打で東方ファンタジアが更に1点を返した。

4 回表

東方ファンタジア 3

作者同盟軍

4

疾風の音

「1点差になったか・・・」

翡翠 煉

「そろそろ行きますか?」

疾風の音

「もうちょっと引つ張る、投手が3人しか居ないからもし無くなったら打つ手が無くなる」

1 番 ライト レミリア

レミリア

「今度こそ打つ!絶対に打つ!」

ゆうちゃん

「試合を作れば御の字だけど・・・」

izumi

(疲れてきたな・・・俺はこの回でお役御免か?)

ゆうちゃん

(まだだと思えますよ。こっちは人数が少ないですから、少なくともizumiさんは6回位まで使って言うてましたし)

izumi

(そんな事言われてもなあ・・・スタミナがあまり多くないからなあ、俺)

レミリア

「ちょっと！何を話してるの？早く始めなさいよ！」

ゆうちゃん

「とにかく、まずは抑える！だあっ！」

レミリア

「おりゃあー！」

バシンッ！

審判

「ストライク！」

レミリア

「相変わらず嫌な投球をするわね・・・」

ゆうちゃん

「これ以上点をやれないからな。満塁だし……」

レミリア

「さあ来なさい！」

なのは

「ここで一打出れば東方ファンタジアは逆転出来ますよね」

マリオ

「ここがターニングポイントになりそうですよね」

ゆうちゃん

「ふう……追い込んだか」

レミリア

「タイミングが合わないわ……」

カウントは2ボール2ストライク、レミリアを追い込んだゆうちゃん。

ここで断ち切るか、まだ続くのか。

ゆうちゃん

「はあっ！」

レミリア

「はあっ！」

ブンッ！

審判

「ストライク！バッターアウト！」

レミリア、3打数無安打2三振

レミリア

「う〜」

カリスマが駄々漏れだ。

ゆうやん

「ふう・・・何とか攻撃が終わった」

射命丸

「東方ファンタジアが2点を返しました！果たして作者同盟軍は突き放す事が出来るのか！」

4回裏 作者同盟軍の攻撃

7番 キャッチャー izumi

izumi

「疾風さんがウォームアップをしているから、俺は今日打席に立つのはこれで最後か・・・まあスタミナが難点だからなあ・・・」

霊夢

「何をぶつぶつ言ってるの？早く打席に立ちなさいよ」

izumi

「言われなくても分かっている」

打席に立つ izumi。

izumi

「この打席で結果を出す！」

霊夢

「打てるものなら・・・打ってみなさい！」

バシッ！

審判

「ボール！」

輝夜

(うっん・・・この打席に賭けてるわね。三振が一番効率が高いわ)

霊夢

(じゃあ三振を狙うわよ！)「はあっ！」

バシンッ！

審判

「ボール！」

霊夢

「またボール!?!」

カイ・R・銃王

「izumiさん、選球眼が良いな」

竜斗

「疾風さんは?」

のりりん

「翡翠さんと一緒にブルペンに行きましたよ」

しら

「翡翠さん、投手登録だったんですね。パルポンさんは?」

パルポン

「俺は捕手と投手以外なら何処でも守れるぞ」

無幻

「凄いですね！ユーティリティプレイヤーじゃないですか！」

審判

「ボール！フォアボール！」

ミゲール

「izumiさんが先頭で出た！」

無幻

「次の打者はここが大事だ！」

ダンテ

「よし！絶対に繋ぐ！」

8番 レフト ダンテ

霊夢

「ここで点を取られたら流れが向こうに行ってしまうわね」

妹紅

「霊夢！慌てるなよ！」

輝夜

「そうね、慌てたら駄目よ。ゆっくり考えなさい」

霊夢

「分かったわ・・・よし、はあっ！」

バシンッ！

審判

「ストライク！」

輝夜

「良い球よ、霊夢。その調子よ」

霊夢

「あら、ありがとうね」

ダンテ

（次で勝負した方が良いな）

そして2球目・・・。

霊夢

「はあっ！」

ダンテ

「だあっ！」

カキンッ

霊夢

「あっ！」

ダンテ

「よし！」

打球はライトへ。

レミリア

「ここぐらいは決めないと！」

レミリアはここぞとばかりにダッシュし、ボールに向かう。

レミリア

「だあああああ！！！！」

izumi

「無駄だ！その打球は・・・」

パシンッ！

ダンテ

「取れるのかよ！」

なんと、小さい体のレミリアが鋭い打球をキャッチした。

izumi

「戻らないと！」

レミリア

「させるかあ！」

izumi

「うおおおおお……！」

ズザー！

審判

「セーフ！」

izumi

「危な……」

レミリア

「ちっ！」

ダンテの鋭い打球をレミリアがナイスキャッチでアウトを奪った。

射命丸

「あやや・・・ダンテさん惜しかったですね」

なのは

「あれを取るレミリア選手は凄いですね」

マリオ

「まだどっちに流れがあるか分かりませんね」

9番 ピッチャー ゆうちゃん

霊夢

「そう言えばアンタには打たれてたわね。この打席は打ち取らせてもらっわー！」

ゆうちゃん

「それはどうかなー！」

霊夢

「行くわよー！はあっ！」

ゆうちゃん

「はあっ！」

ガキンツ！

審判

「ファール！」

小町

「霊夢は何回まで投げさせるんだい？」

アリス

「そうね・・・少なくとも6回、7回まで持たせるわ」

そしてカウントは1ボール1ストライク。

霊夢

「行くわよ・・・だあっ！」

ゆうちゃん

「だあっ！」

カキンツ

打席はレフトへ。

幽香

「はい、アウトね」

ゆうちゃん

「平凡なレフトフライになったか・・・」

続く1番のリリカルショーバイは・・・。

霊夢

「はあっ！」

バシンッ！

審判

「ストライク！バッターアウト！」

リリカルショーバイ

「打てなかった・・・」

空振り三振を取られ3アウト。

作者同盟軍は走者を出したものの無得点に終わった。

5回表 東方ファンタジアの攻撃

2番 ショート 妖夢

妖夢

「さあ、名誉挽回しますよ！」

ゆうちゃん

「どうかな！」

妖夢

「打てない球などあんまり無い！」

しかし……。

バシンッ！

審判

「ストライク！バッターアウト！」

妖夢

「全く良い所が無いです……」

izumi

「これで8個目が、凄いですね」

ゆうちゃん

「いえいえ、izumiさんのお陰ですよ」

3番の藍に対しても強気の投球をするゆうちゃん。

ゆうちゃん

「はあっ!」

藍

「ぐっ!」

ガキンッ

しら

「ここを打ち取ったのは大きいな」

カイ・R・銃王

「曲者ですからね・・・」

ファーストゴロで藍を打ち取り2アウト。

そして4番の勇儀に対しても。

ゆうちゃん

「はあっ！」

勇儀

「はあっ！」

カキンッ！

竜斗

「よし！真正面だ！」

竜斗の真正面に打球が飛んできた。

これでアウト……かと思ったその時！

竜斗

「眩しい！」

ポロッ

竜斗

「あっ！」

ゆうちゃん
「えっ？」

太陽が眩しかったせいか、フライを落としてしまった竜斗。

竜斗

「やってしまったあああああ……！」

疾風の音

「ドンマイ！まだ慌てないで！」

霊夢

「勇儀が出たわよ！」

幽香

「さあ、叩くわよ」

エラーで勇儀を一塁に置いて5番の幽香を迎えた。

幽香

「さあ、やるわよ」

ゆうちゃん

「絶対に点はやれないな……」

i n z u m i

「負けられないな」

バシンッ！

審判

「ボール！」

霊夢

「そろそろ動いた方が良いかしらね」

アリス

「まあ、その判断は私がやるんだけどね」

その後、ゆうちゃんは幽香に対して1ボール2ストライクと追い込んだ。

ゆうちゃん

「よし！行くぞ！」

幽香

「絶対に打つ！」

ブンッ！

審判

「ストライク！バッターアウト！」

ゆうやん

「よっしゃあー！！！」

射命丸

「ゆうやん投手が吼えた！」

マリオ

「これで9個目ですね」

なのは

「これでまた流れが向こうに行きそうですね」

射命丸

「5回表が終わって4対3、作者同盟軍が1点リードしています！」

更なる追加点を取りたい作者同盟軍。しかし、その前に東方ファンタジアのエース、博麗霊夢が立ちはだかる。

5回裏の作者同盟軍の攻撃。

2番のカイ・R・銃王に対して。

カイ・R・銃王
「うおわ!？」

内角球すれすれで攻めてきた。

カイ・R・銃王

「危な〜」

霊夢

「ちっ」

のりりん

「今舌打ちしたよね!？」

ダンテ

「絶対に怪我させる気満々だ・・・」

審判

「アウト!」

結局カイ・R・銃王はセカンドゴロに倒れた。

3番 センター 竜斗

霊夢

「だあっ！」

竜斗

「はあっ！」

カコンッ

審判

「ファール！」

竜斗はさっきのエラーを帳消しにしたいのか、ファールで粘る。

霊夢

「フゥでー！」

竜斗

「フォークか！ここだ！」

カキイン！

バシイン！

竜斗

「嘘だろ!？」

良い当たりをした打球だが……。

妹紅

「残念だったな」

打球は妹紅のグラブに収まった。

翡翠 煉

「うあ!惜しい!」

疾風の音

「鋭い打球だが仕方がないなあ……」

4番のしらは2安打2打点、その内の1安打はホームランを記録している。

霊夢

「確かホームランを打たれてたわね……」

輝夜

「気を付けた方が良くかも」

しら

「ふう……よし」

霊夢

「行くわよ・・・だあっ！」

バシンッ！

審判

「ストライク！」

霊夢

（何かを狙ってるわね）

輝夜

（何を狙ってるのかしらね）

しら

（ストリートなら、前までの球威が無くなって来てる。狙うならストリートだ！）

霊夢

（真っ直ぐ行くわよ！）「はあっ！」

しら

「貰ったあ！」

カキーン！

霊夢

「嘘!？」

射命丸

「しら選手! 2打席連続なるか!」

しかし打球はポールの外側に・・・。

審判

「ファール!」

しらの連続ホームランにならず、良かったと思った霊夢は命拾いした。

霊夢

「危ないわね・・・」

輝夜

「これでストレートが投げれなくなったわね」

霊夢

(どじする?)

輝夜

(2ストライクだから、今行ける球を投げれば良いわ)

そして、注目の3球目……。

霊夢

「はあっ！」

しら

（内角！だが外れる！）

バシンッ！

審判

「ストライク！バッターアウト！」

しら

「なっ！」

霊夢

「よっしゃあ！」

しら

「今の入ったのか！？」

審判

「ギリギリで入ってました」

しら

「マジか〜・・・くそ〜！」

射命丸

「5回が終了しました。これより後半戦が始まります！現在4対3で作者同盟軍がリードしています！」

6回表 東方ファンタジアの攻撃

アリス

「良い？必ず流れは来るわストライクゾーンは振って！取り敢えず打つよ！」

魔理沙

「アバウトだなアリス」

アリス

「監督をやったことないから、こつ言つ風にしか言えないからね」

この6回、試合が動く。

まずは6番、妹紅は・・・。

妹紅

「もらった！」

カキイン！

初球をライト前にヒットを放つ。

ゆうちゃん

「先頭を出された・・・」

izumi

「気を引き締めましょう」

コンッ

ゆうちゃん

「これは一塁に投げるしかない」

美鈴

「任せましたよー！」

7番の美鈴は送りバントで1アウト2塁。

izumi

「やっぴいすすっ？」

ゆうちゃん

「ここで点はやれない……どうするか……」

打席には8番の輝夜。

ここで監督をしているアリスが動く。

アナウンス

「バッター輝夜に変わりました、フランドール。代打フランドール」

射命丸

「ここでアリス監督が動きました！代打のフランドール選手です！」

フラン

「よし！ドッカーンと行くよー！」

ゆうちゃん

「ここに来てフラン……だけどここで抑えれば……」

魔理沙

「ここでフランか、まあアイツなら打ってくれるだろう」

アリス

「本当ならスタメンで任せて欲しいけれど、今度スタメンに入れて

みるか・・・」

izumi

（ここは変化球で抑えれば行ける！）

ゆうちゃんはこくと頷く。

ゆうちゃん

「はあっ！」

フラン

「ぎゅってして・・・ドッカーン！」

カキイン！

審判

「ファール！」

ゆうちゃん

「でかいファールだな！」

フラン

「むっ・・・」

続く2球目・・・。

ゆうちゃん

「はあっ！」

フラン

「やあっ！」

カキンツ！

ゆうちゃん

「なっ！」

izumi

「まさかのコンパクトで打った！」

輝夜

「妹紅！ホームまで行きなさい！」

妹紅

「言われなくても分かってるよ！」

竜斗

「行かせるか！バックホーム！」

妹紅

「うおおおおお！……！」

ズサー！

審判

「セーフ！」

妹紅

「よっしゃあー！！！」

射命丸

「代打フランドール選手の適時打で東方ファンタジアが追い付きました！」

6回表

東方ファンタジア 4

作者同盟軍

4

フラン

「やった〜！」

アリス

「フラン、お疲れ様。じゃあリグル。代走頼むわよ」

リゲル

「えっ？あっはい分かりました」

アナウンス

「代走フランドールに変わりました、リゲル」

アリス

「リゲルにはこの後の守備にも出すわよ」

ゆうやん

「くあ・・・どうする・・・」

疾風の音

「ゆうやんさん」

射命丸

「おっと？監督の疾風の音さんがマウンドに行きましたよ？」

疾風の音

「どうしますか？交代しますか？」

ゆうやん

「大丈夫です。ちょっとスタミナが物足りないですけど」

疾風の音

「無理だと思った場合、交代させても良いですか？」

ゆうちゃん

「はい、構いませんよ」

9番 ピッチャー 霊夢

ゆうちゃん

「霊夢は続投か・・・」

霊夢

「6回までは持たすってアリスが言ってたし」

ゆうちゃん

「行くぞ・・・はあっ！」

霊夢

「はあっ！」

ブンッ！

審判

「ストライク！」

izumi

「良い投球してますよー！」

ゆうちゃん

「これでも一杯一杯ですよ……」

その後、霊夢を追い込み……。

ゆうちゃん

「だあっ！」

霊夢

「はあっ！」

ブンッ！

審判

「ストライク！バッターアウト！」

射命丸

「これでゆうちゃん投手の奪三振の数が10個になりましたね」

なのは

「凄いですね。このまま行って欲しいですね」

これで2アウトになった。

1番 ライト レミリア

ここまでレミリアは全く良いところがない。

レミリア

「絶対に打つ！フランだって打ったんだから！」

もはやカリスマの何でもないレミリア。果たしてこの状態で打てるのか。

ゆうちゃん

「よし・・・はあっ！」

レミリア

「やあっ！」

カキンッ

審判

「ファール！」

レミリア

「絶対に打つ！」

闘争心が半端ではない。

しかしそれが空回りし簡単に追い込まれる。

ゆうやん

「これで三振だ！」

レミリア

「こうなったら・・・無心になる！」

カキーン！

ゆうやん

「なっ！」

izumi

「ヤバい！でかい！」

レミリア

「行けえ！行けえ！」

ミゲール

「ああ！入った！」

審判

「ホームラン！」

レミリア

「やったあああああ！！！！」

射命丸

「東方ファンタジア、レミリアの2ランホームランで逆転勝ち越し！！」

フラン

「お姉様！やったあ！」

レミリア

「やっと活躍できた〜・・・」

6回表

東方ファンタジア 6

作者同盟軍 4

ゆうやん

「うっ・・・打たれたよ・・・」

疾風の音

「ゆうやんさん、限界見たいですね・・・投手交代します」

射命丸

「あや？ゆうちゃん投手が交代するようですね」

アナウンス

「ピッチャー、ゆうちゃんに変わりました。翡翠 煉。ピッチャー 翡翠 煉」

マリオ

「2番手ピッチャーは翡翠投手のですね」

ゆうちゃん

「じめんなさい、ちょっと点を取られ過ぎました」

疾風の音

「ゆうちゃんさんは良く投げましたよ。お疲れ様です」

翡翠 煉

「よし、投球練習はこれで良いか」

射命丸

「ここにあるデータによると翡翠投手は左投げ右打ちで投球はサイドスローで投げるようです」

izumi

「何時でも良いですよ」

翡翠 煉

「了解です」

2番 ショート 妖夢

妖夢

「投手交代ですか……ですが！必ず打ちますよ！」

翡翠 煉、注目の1球目。

翡翠 煉

「はっ！」

バシッ

審判

「ストライク！」

妖夢

「曲がりますね。凄いスライダーです」

翡翠 煉

「次行くぞ。はっ！」

妖夢

「やつ！」

カキンツ！

翡翠 煉

「サード！」

無幻

「よし、はい！」

しら

「はい！」

審判

「アウト！」

射命丸

「6回表が終了しました。東方ファンタジアがこの回3点を取り、逆転に成功しています！2点を追いかける作者同盟軍は5番からの打順です！」

6回裏 作者同盟軍の攻撃

2点差を追いかける形となった作者同盟軍。何とか早い段階で追い

付きたい。

アナウンス

「代走で入りましたリグルはレフトへ、レフトの幽香に変わりました小町がキャッチャーへ。5番 キャッチャー 小町。8番 レフト リグル」

アリス

「さあ、守備を固めるわよ」

5番 ライト ミゲール

ミゲール

「守備を固めてきたか」

無幻

「逃げきりを狙う気でしよう」

疾風の音

「それでも、食らい付く。そのつもりで行く」

小町

「霊夢、疲れて来たんじゃないかい？」

霊夢

「そうね、若干だけど疲れてきたわね」

アリス

「無理なら霊夢を変えるわ」

霊夢

「大丈夫よ……この回で私の仕事は終わりだから」

ミゲール

「相手の先発は多分この回で最後だな」

霊夢

(行くわよ……)「はあっ!」

バシンッ

審判

「ボール!」

霊夢

「スピードが思ったより出ないわ……」

続く2球目。

霊夢

「やっ!」

ミゲール
「ここだ！」

カキイン！

妖夢
「みよん！？」

ミゲール
「よし！初ヒット！」

ミゲールのヒットでチャンスを広げたい作者同盟軍。

アリス
「霊夢は限界っばいわね。残念だけど、霊夢、交代よ」

霊夢
「え！？交代！？私はまだ」

アリス
「貴方はもう体力残ってないから、明日に備えなさい」

霊夢
「・・・もう、分かったわ」

射命丸

「あやや！アリス監督がピッチャーを交代するようですね」

マリオ

「東方ファンタジアの投手登録は4人居ますね」

魔理沙

「それで、誰が投げるんだ？」

アリス

「貴方に投げてもらいます白蓮さん」

白蓮

「私ですか？良いですよ」

アナウンス

「ピッチャー霊夢に変わりました、白蓮。ピッチャー白蓮」

射命丸

「ここで聖白蓮をマウンドに送り込みました！」

なのは

「白蓮さんのデータは150キロ台の直球が武器になってますね」

無幻

「早い・・・打てるのだろうか」

6番 サード 無幻

白蓮

「それでは。参ります！」

無幻

「よし！」

バツシーン！

審判

「ストライク！」

無幻

「早いつて！」

白蓮

「ふふふ、次行きますよ？はあっ！」

無幻

「こつなったら玉砕覚悟だ！」

カキンッ！

無幻

「力にやられた・・・」

美鈴

「これで1アウトですね!」

力に押された無幻 はセカンドフライに倒れた。

アナウンス

「バッター izumi に変わります、疾風の音。代打、疾風の音」

射命丸

「遂に来ました! 作者同盟軍の監督、疾風の音選手が代打で登場しました!」

白蓮

「勝負ですよ、監督さん」

疾風の音

「今は一選手、この打席で結果を残す」

白蓮

「では行きますよ! はあっ!」

疾風の音

「はあっ!」

ブンッ!

審判

「ストライク!」

疾風の音

(早い・・・タイミングが掴めない・・・)

その後、2ボール1ストライクとなり4球目。

白蓮

「行きます! やっ!」

疾風の音

「はあっ!」

バキンッ!

疾風の音

「バットが折れたあ!？」

ミゲール

「走って正解だった!」

疾風の音は万が一の為にアイコンタクトでミゲールを走らせる賭けに出たのだ！

美鈴

「仕方ないですね・・・勇儀さん！」

勇儀

「これで2アウトだね」

併殺打は何とか阻止し、2アウト二塁。

ここで前の打席でライトへ良い当たりを放ったダンテ。このチャンスを生かせるか。

ダンテ

「ここは打たないと・・・だけど球が早いつて言ってたし・・・」

白蓮

「用意は良いですか？」

ダンテ

「はい」

白蓮

「では・・・はっ！」

バッシーン！

審判

「ストライク！」

小町

（痛っっー・・・なんと言うか・・・手が痛いよ・・・）

ダンテ

（そう言えば・・・まだストレートしか投げてないな・・・ひよっ
としたら！）

小町

（そろそろ変化球投げないのかい？）

白蓮

（ですが、私は変化球はあまり得意では・・・）

小町

（自信持ちな！アタイが保証する！）

白蓮

（分かりました！スライダーを投げます！）「やあっ！」

ダンテ

（やっぱり！あまり曲がってない！）「行ける！」

カキーン！

白蓮

「しまった！」

射命丸

「ダンテ選手！流し打ちでヒットを放った！」

ミゲール

「よし！ホームインだ！」

ダンテ

「よし！このまま二塁に！」

レミリア

「させない！美鈴！」

美鈴

「お嬢様！」

ダンテ

「うおおおおー！！！」

バシッ！

美鈴

「だあああああ！！！！」

ズザー！

審判

「アウト！」

射命丸

「二塁を狙ったダンテ選手はアウトになったものの、適時打を放ち、ランナーを返したため点数入りしました！」

6回裏

東方ファンタジア 6

作者同盟軍

5

射命丸

「ですが、3アウトになり6回が終了しました！6対5、試合は終盤へと入ります！」

現在のスコア

東	1	0	0	1	2	0	3	1	6
作	0	0	4	1	0	0	1	1	5

ヒット数

東 9
作 7

投手成績『先発のみ』

東方ファンタジア

博麗霊夢

投球回 5 0 / 3

被安打 6

奪三振 5

四死球 2

失点 5

自責点 5

作者同盟軍

ゆうやん

投球回 5
2 / 3

被安打 9

奪三振 10

四死球 1

失点 6

自責点 6

次回！遂に決着！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8455w/>

アニメ！ゲーム！作者！野球大会選手権！

2011年11月10日00時12分発行